

各新聞の報道立場の相違に関する公共選択論的分析

沖縄国際大学 庵原 さおり
E-mail: saori.ihara@gmail.com

報告要旨

各新聞の報道立場（もしくは論調、報道姿勢）に注目するとき、程度の差はあれ違いが観察できる。具体的には、特に各新聞の日々の社説を見比べると、同じ内容を選んでいても議論の方向性や望ましいとする姿に違いを見ることができる。そこで本稿では、公共選択論の分析手法を用いた理論モデルを構築することで、各新聞が選ぶ報道立場について考察する。なお、その際特に、本稿では新聞の「質」を考慮する。具体的には、各新聞には報道立場以外にも、記事の内容やページ数をはじめ、コラムや広告の量等、様々な違いが見て取れる。そこで、それらをまとめて新聞の質の高さとして評価する。そして、新聞が報道立場と質のどちらも選択する状況を検討する。

具体的なモデルとしては、2大新聞が報道立場と質を順に選ぶ2段階ゲームを考える。分析は、第1段階で選ばれる報道立場を所与とする各新聞が、第2段階で選ぶ質についての検討から行う。そしてこのとき、（ある条件を満たす場合には）第1段階で各新聞が選んだ報道立場の差が小さいほど、第2段階では比較的高い質を選ぶことになることを提示する。本稿では次に、第1段階にある各新聞が、第2段階で選ぶ質を考慮しつつ、報道立場を選ぶ状況を検討する。そして、相手と異なる報道立場を選ぶ状況が均衡の結果として生じることを示す。なお、この結果が得られる主な理由は、各新聞が第2段階で選ぶことになる質を考慮するとき、質を上げるためにかかる費用をできるだけ削減できるよう報道立場で差をつけておこうとするためである。